



崎山小児科・院内報

Okero Kero通信

4月 2018年

第229号



親は子どもの応援団



先日閉幕した平昌オリンピックで、スピードスケートやカーリングなど、金、銀、銅、日本人からも何人かのメダリストが誕生しました。メダリストに対して、多くの人はおめでとうとお祝いの言葉で賞賛しますが、メダルが取れなかった選手におめでとうと言うことはまずありません。メダルを逃した人に対しては、頑張ったけれど残念だった、惜しかったなどと声をかけるかもしれません。しかし、メダルを取れなかった選手たちも、国内予選を勝ち抜いてオリンピック進出が決まったときには、出場おめでとうとその努力を認められていたはずで、その後も本番に向けて一生懸命、勝つためにそれまで以上の努力を重ねたはずで、それなのに更なる結果を期待する人たちは、メダルを取らないとおめでとうと言ってくれません。

でも、本当に応援してくれる人は、オリンピック出場を決める前からずっと応援を続け、一つ一つの努力と行動に惜しみない拍手を送ります。試合に勝てば一緒に喜び、試合に負けたら一緒に悔しく思う。選手を貶（けな）したり非難したりすることなく、常に選手の安全と成功を祈っている。それが心からの応援です。

誰に何と言われようとも、親は子どもたちにとって一番の応援団でありたいと思います。生まれたときから、ことあるごとにはらはらドキドキしながらずっと応援を続ける。無事に元気で生きてほしい、ここが応援の原点です。ところが、親としての見栄があると、よその子どもと比較してよりよい結果や成果を求めたくなります。子どものためと理由をつけながら子どもを通して自分が求める結果を追求し、最初は子どもを応援していたのに、いつのまにか子どもを追い詰めてしまうこともあるのです。

この季節は、進学、進級など生活に大きな変化が現れます。状況が変われば親も子どもも新たな悩み事が生じることでしょう。子どもの可能性を信じて、頑張っている子ども達を応援しましょう。自分で試合ができないもどかしさを感じても決して試合場に立つことはなく、試合中に手を貸すことはなく、ただただ心配する。これが親の応援方法なのかもしれません。

スタッフ紹介

4月から新年度になり、ワクワクする新生活が始まりますね。崎山小児科にも4月から新しい先生が仲間入りします！崎山先生以外にも診察にあたる先生がたくさんいるのでご紹介します。

月曜日<午前> 宇田先生（小児総合医療センター感染症科勤務）

以前は成育医療センターの感染症科に勤務されていました。

優しく話やすく、感染症や予防接種に詳しい男性医師です。松山ケンイチ似？

月曜日<午後> 有山先生（小児総合医療センター総合診療科勤務）

優しく、とてもまじめで丁寧に診察して下さる男性医師です。ホリの深いお顔です。

火曜日 三輪先生（専門：内分泌）

優しい雰囲気ですっきりした診察をして下さる女性医師です。2児の母。

水曜日 榊原先生（専門学校講師、他小児科勤務歴あり）

さばさばした女性医師です。2児の母。新しい先生たちの中で医師歴が一番長いです。電子カルテは初です。

金曜日 谷河先生（小児総合医療センター感染症科勤務）

明るくて元気な女性医師です。優しい雰囲気。1児の母。

木曜日 宮部先生 <臨床心理士>

崎山小児科には週に1回勤務しています。笑顔の優しい女性の先生です。相談ご希望の方はまずは崎山先生で予約をお願いします。

◎昨年度から引き続き荒木先生、大瀧先生も診療致します。

木曜日 荒木先生（小児総合医療センター感染症科勤務）

以前は沖縄の病院で勤務されていました。顔の濃い男性医師です。優しく、丁寧に診察して下さいます。

土曜日（月2回） 大瀧先生（しまだ療育園勤務）

元気で、かわいらしい女性医師です。3児の母。崎山小児科勤務歴が一番長い先生です。

看護師、事務スタッフは変わらないメンバーです。新年度からもよろしくをお願いします！

